

民主化闘争情報

No. 836
2011年10月12日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

10月1日、JR東日本ユニオンが秋田地方本部で東労組から1名の仲間の加入を勝ちとった。革マル派が浸透する東労組の運動に疑問を感じたうえでの決断だ！

JR東日本ユニオンが東労組から組織拡大！ 拡大を契機に、東労組組合員への働きかけを強化しよう！

今回、東労組と決別し、JR東日本ユニオンに加入したのは秋田車両センターの高橋善孝さん(49歳)だ。高橋さんは、東労組に対して、「東労組の運動に疑問がある」「革マルだといわれている人の選挙を応援するのはおかしい」と疑問を呈したうえで、「このまま、疑問を解決できず鉄道人生を送るのは自身にも先輩にも申し訳ない」と、加入の動機を語っている。

高橋さんと同じ様に疑問を感じている東労組組合員は数多く潜在している。今回の高橋さんの決断に敬意を表するとともに、東労組組合員に対する働きかけをさらに強化し、JR連合・JR東日本ユニオンへの結集を呼びかけよう！

JR東日本ユニオンが国労、ジェイアール労組、建交労へ年末手当で共同要求を要請！

JR東日本ユニオンは、国労東日本本部、ジェイアール労働組合、建交労鉄道東日本本部に対して、以下の「『2011年度年末手当に関する申し入れ』の共同要求の要請について」と題する書面をもって、共闘の要請をおこなった。この要請に対して、ジェイアール労働組合が賛意を示し、両組合が10月11日、2011年度年末手当の共同要求の申し入れを会社に提出した。

謹啓 貴労組におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、常日頃、組織の発展と組合員のために運動を展開されていることに敬意を表します。

さて、JR発足25周年の節目の年度に臨むにあたり、震災復興とともに、今後の社会においてJRや労働組合の果たすべき役割の重要性を再認識し、私たちの課題の解決や組織の飛躍にむけ、相互に力強く運動を展開しなければなりません。その趣旨に基づき、標題の共同要求行動について要請を致しますので、ご検討をお願いします。

2011年度・年末手当を巡る情勢と認識について、若干ふれさせていただきます。

未曾有の東日本大震災の影響は甚大で、2011年春闘は予想通り厳しいものとなりました。定期昇給は確保したものの夏季手当はベースといわれる2.7ヶ月を割って2.6ヶ月支給になり、組合員は会社の現状を認識しつつも強い不満感を持っています。

東日本大震災に対しては、労使の懸命な努力で4月29日の東北新幹線全通、9月23日の通常ダイヤ化が功を奏し、鉄道営業収入も順調に回復し9月期速報値ではほぼ対前年100に戻りました。

第1四半期決算は大震災の影響もあり過去最大の減収減益となりましたが、それでも444億円の経常黒字であります。災害特別損失の277億円は地震保険で十分回収可能であり、これを入れなければ年度末には減益ではなく増益となる見通しです。

内部留保も1兆6000億円に膨れ、配当予想も昨年同様110円を維持することを決定し、会社は十分な経営体力があることを証左しました。

社員に対しても鉄道の復旧・復興努力に報いるために2011年度の年末手当の月数については業績反映として3.2ヶ月分を要求していく所存です。今後、相互の団体交渉において、共同要求を進めていくことを要請します。

謹 白

《要求内容》

1. 2011年度年末手当は、基準内賃金の3.2ヶ月分を12月5日までに支払うこと。なお、平成23年10月1日現在、満55歳以上の社員に対して特に3万円を加算すること。
2. 成績率の適用については公正厳格に行うとともに、人材育成に有効に活用すること。